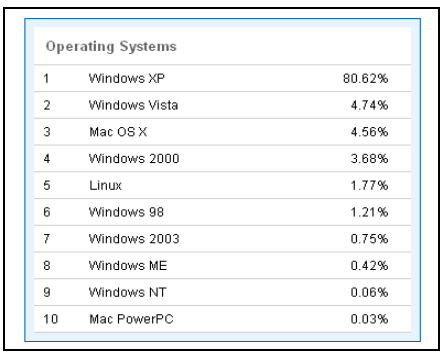
自由なソフトウェアの調査研究

04H013 今中章裕

1　はじめに

私が自由なソフトウェアの調査研究についての卒業論文を書くきっかけは、大学に入り初めて Linux という OS を知り興味をもったからです。Linux という OS の名前は聞いたことがあったが今まで利用したことはありませんでした。GNU/Linux は Windows とは異なり、自由なソフトウェアです。現在、世界的にインターネットに接続に使用されている OS は図 1 より Windows が 90 パーセント以上シェアを占めている。OS にも選択肢があるのにも関わらず Windows がほぼ独占的に利用されている現状を見て、企業や携帯端末の組込み OS として近年導入が進んでいる GNU/Linux が家庭にあまり普及していない現状に疑問を持ちました。私はなぜ GNU/ULinux が一般利用されていないか理由を明らかにし、一般化する法則を考えてみる。



Operating Systems		
1	Windows XP	80.62%
2	Windows Vista	4.74%
3	Mac OS X	4.56%
4	Windows 2000	3.68%
5	Linux	1.77%
6	Windows 98	1.21%
7	Windows 2003	0.75%
8	Windows ME	0.42%
9	Windows NT	0.06%
10	Mac PowerPC	0.03%

図 1　世界中でインターネットに接続されている OS の種類の割合

2　目的

現在、 PC は一般家庭に広く普及している。Linux に関する需要が増加してきても一般家庭で使われている PC の OS は Windows が大半である。自由なソフトウェアである Linux がもっと普及すれば用途による選択肢が増えまた Windows とは違った環境を体感するということで PC の利用の可能性が今までよりも広がるのではないかと私は考えた。また、エンジニアや情報学科の学生だけでなく家庭で一般的に使われるようになることで Microsoft 中心の現在の IT 業界の幅を広げることができ、業界全体が一層活発になると考えた。つまり Linux ユーザーが増えることによって Linux の研究、開発が盛んになり、IT 業界がより一層発展することを目的としている。

3　まとめ

私は GNU/Linux が一般家庭に普及しないいくつかの原因を考察した。その中で Linux を知っているが使ったことがない人に使ってもらいユーザーを増やすことが先決だと私は考えた。また、Linux が Windows にない魅力的なものを提案することができればユーザーが増えると考えた。Linux の Windows にない魅力は開発の柔軟性だと私は考えた。つまり、用途に特化した OS を充実させれば良いと私は考える。例えば、Ubuntu Studio のようにマルチメディア機能に特化したディストリビューションなど用途にあった OS を充実させれば利用者が増えるのではないか。もし Windows でグラフィックス、オーディオ、ビデオなどマルチメディア機能の充実した環境を作ろうと思うと高価なソフトウェアを別途購入し、インストールしなければならない。それらのソフトウェアがまとめて基本パッケージとして提供されれば便利であると考えられる。用途に特化した専用 OS が充実すれば Linux が一般化するのではないだろうか。今後、Linux のデスクトップ環境は目的に合わせて機能を特化したものを増やしていく必要があると私は考える。現時点の問題はマルチメディア系アプリケーション場合、Windows 等の有償のアプリケーションと比べて機能が貧弱なところである。今後、アプリケーションの高機能化が課題である。